

■米国：移住が今後の天然ガス消費に影響か

2012 年 11 月 26 日付の業界紙によると、米国では近年、北東部や中西部から西部や南部への移住が加速しており、今後もこの傾向が継続すれば天然ガス消費に影響を与える可能性があるとしている。北東部や中西部では冬季に天然ガスを用いた暖房を使用するのに対し、西部や南部では電力を用いることから、天然ガスの使用量は減少するという。一方で夏場は西部や南部は暑くなるため、冷房需要の増加に伴い天然ガス消費量も増加するものの、冷房のほうが暖房に比べて効率が良いこともあり、年間を通した家庭用の天然ガス消費量は減少すると予測している。しかしながら、現在は天然ガス価格が低く推移しており、発電用の消費が増加していることから全体の消費量は相殺される可能性があるとしている。

2010 年の国勢調査によると 2000 年から 2010 年までの間に米国の人口は 9.7%増加しており、北東部と中西部はそれぞれ 3.2%、3.9%となっているのに対し、西部と南部はそれぞれ 13.8%、14.3%と高い伸び率を示している。